

白駒妃登美の
なでしこ
歴史物語
3

日本の悠久の歴史をひもとけば、そこにはわが国を支えてきた「なでしこ」たちの存在があります。福岡の人気歴史家・白駒妃登美さんに、そんななでしこたちの知られざる歴史物語を紹介していただきます。

しらこまひとみ
博多の歴女 白駒妃登美

すべての人々に優しさを

慈悲深さの象徴・光明皇后①

＊光り輝くような美しさ

前回ご紹介した笠森お仙のように、いつの時代にも、その時代を象徴する「やまとなでしこ」は存在するものです。

では悠久の歴史を紡いできた日本史上で、その先駆けとなる女性は——。皆さまならどの人物を挙げるでしょうか。

容姿の美しさとともに、その慈悲深さで民衆の心を癒した人。そんなやまとなでしこの象徴的存在として私が真っ先に思い浮かべるのは、なんとといっても第四十五代・聖武天皇のお后である光明皇后です。

皆さまもお名前を耳にしたことはあるかもしれませんね。今からおよそ一三〇〇年前、奈良時代に生きた女性です。

もともとは「安宿媛」といいましたが、

容姿が光り輝くように美しかったことから、のちに「光明皇后」と称されました。

この皇后さま、実は注目されたのは容姿だけではないんです。その聡明さも際立っていたといえますから、まさに才色兼備の女性だったのでしょうかね。

光り輝く美しさと聡明な知性を兼ね備えた女性。それだけでもやまとなでしこの資質は十分ですが、その名が後世まで残っているのは、ある伝説に象徴される「慈悲深さ」にあると私は感じています。

＊千人目は仏さま 伝説

光明皇后の慈悲深さが表れる、一つのエピソードをご紹介します。

そもそも、光明皇后が後に聖武天皇となる皇太子と結婚したのは十六歳の時でした。



光明皇后 (701-760)
奈良時代の聖武天皇(第45代)の皇后。初めて皇族以外から皇后となり、政略結婚という誹謗を受けながらも、貧しい人々に施しを与え続けた。

【イメージイラスト】
アオジマイコ